

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年 3月 14日

事業所名 放課後等デイサービスあすひ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		児童が一つのフロアに集中しないように、個別のスケジュール管理をしながら分散させている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		厚生労働省が定める人員基準に合わせて職員を配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		建物の構造上エレベーターがないため、階段には両側に手すりを設置し、必要に応じ見守りや介助を行い安全の配慮に努めている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に、支援会議の時間を設け、目標設定や評価、振り返り等を行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		支援の方向性等、保護者のニーズに応えながら環境設定や、支援計画を作成している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで確認できるようにしている。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在は実施していませんが、今後、必要に応じて検討していきたい。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修は定期的に行っており、外部研修は、オンライン研修も含め積極的に参加出来るように対応している。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日々の支援記録や保護者面談によるアセスメントを行っています。また、定期的に個別支援会議を実施し、職員同士で話し合いをする機会を設けている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	標準化されたアセスメントツールを使用できていない為、研修会等へ積極的に参加し、今後使用していけるよう努めている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		個別支援会議を定期的に行い、職員間で意見を共有している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		1人ひとりの障がい特性や課題に応じてプログラム活動を組み合わせている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日や長期休暇等、長時間お預かりする場合は、外出訓練など取り入れている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		1人ひとりにあわせ、個別活動と集団活動を組み合わせながら活動を行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、ミーティング時に今日の活動内容や注意事項等、話し合いの場を設けている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		翌日のミーティングで振り返りや支援の進め方を共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個々の支援に対しての活動内容を記録するよう努めている。	
関係機	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリング、家族との面談を行い計画の見直しを行っている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		個別支援計画作成等の際にガイドラインを見直すこととし、支援に反映させている。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者や児童発達支援管理責任者が参画している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者と連絡調整を行っています。行事等は、学校ホームページ等で把握している。	
関係機	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	今までそういった事例はない。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	今までそういった事例はない。	小学1年生などの対象がいらない為、就学前の機関との情報提供は行えていない。

関 や 保 護 者 と の 連 携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	今までそういった事例はない。	今年度、初めての卒業生がいる為、移行について情報提供を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		必要に応じて、専門機関との連携をしていくよう努めたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		交流の機会がありませんが、今後交流の機会を作っていけるよう調整していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		あれば参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の活動内容を、連絡帳に記載し、保護者と情報共有できるようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者から相談があった際は、随時相談支援を行っていく。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に時間を設けて行っている。報酬改定があった場合には、その都度、紙面にて通知している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要時に助言を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		行事等に保護者も参加できるよう計画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情相談窓口を設け、迅速に対応するように心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に1回、あすひ新聞を発行し活動の様子や行事についてお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		会社で定めた秘密情報管理規程を遵守している。今後も、個人情報の取り扱いには十分留意していく。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		わかりやすい伝達方法を工夫したり、伝わる方法を児童や保護者に合わせるようにしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に1度、グループ全体の行事として行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、今年度も中止となった。	
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	職員に周知している。保護者にも周知するよう努めている。	保護者に対する周知方法を、会社全体で協議していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を2回行った。水害と地震火災を想定しての避難訓練を行った。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会による定期的な巡回や、年に1度、研修会を設けている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		放課後等デイサービス計画に身体拘束の項目を設けている。やむを得ず身体拘束をする場合の内容等を記載し、保護者にも同意を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	医師の指示書までの必要なアレルギーの児童は利用されていない。	今後、医師の指示書が必要なケースがあった際は、対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		各事業所で起こったインシデントアクシデント報告書を回覧し共有している。	